

## 安全データシート(SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

製品の名称	:	ダイハツ オイルリークシール剤
製品コード	:	08830-K9006
会社名	:	日本モビリティサービス株式会社
住所(本社)	:	〒190-0014 東京都立川市緑町 7 番地 1 7F
担当部門	:	品質管理部
電話番号	:	042-503-9299
作成日	:	2016 年 11 月 25 日
改訂日	:	2024 年 1 月 19 日
推奨用途及び使用上の制限	:	自動車用潤滑油充填添加用 ガソリン車、ディーゼル車兼用

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 【物理化学的危険性】

引火性液体	:	区分に該当しない
鈍性化爆発物	:	区分に該当しない
自然発火性ガス	:	分類対象外

## 【健康に対する有害性】

急性毒性 経口	:	区分に該当しない
急性毒性 経皮	:	区分に該当しない
急性毒性 ガス	:	分類対象外
急性毒性 蒸気	:	分類できない
急性毒性 粉塵及びミスト	:	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	:	分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	:	分類できない
呼吸器感作性または皮膚感作性	:	分類できない
生殖細胞変異原性	:	分類できない
発がん性	:	分類できない
生殖毒性	:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露)	:	分類できない
特定標的臓器毒性(反復暴露)	:	分類できない
誤えん有害性	:	分類できない

## 【環境に対する有害性】

急性水生毒性	:	分類できない
慢性水生毒性	:	分類できない

## 【危険有害性情報】

ラベル要素	:	
絵表示又はシンボル	:	なし
注意喚起語	:	なし

## 【注意書き】

一般的な注意書き	:	使用前にラベルをよく読むこと。 子供の手の届かないところに置くこと。
安全対策	:	吸入飲用不可。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 取扱い後は手をよく洗うこと。
使用上の注意	:	本製品はオイルに混合して使用する製品です。 用法、用量をご注意のうえ、ご使用ください。 特にテフロン系の添加剤との兼用は成分バランスが変化し

漏れ止め効果に悪影響を及ぼす可能性がありますので、使用を避けてください。

フラッシング剤を使用される場合には、フラッシングされた油を抜いた後にオイルリークシーラントを添加してください。

火傷の危険があるので、エンジンが冷めてから作業してください。

応急処置

飲み込んだ場合

: 口をすすぐこと。無理に吐かせずに、直ちに医師の診察を受けること。

眼に入った場合

: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

: 水と石鹸でよく洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合

: 医師の診察を受けること。

吸入した場合

: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

保管

: 火気のある所に置かないこと。  
子供の手の届かないところに置くこと。  
直射日光を避けて冷暗所に置くこと。

廃棄

: 廃棄の際は中身を使い切ってから廃棄してください。  
法令に従い適正に処理してください。  
処理方法は法令で義務付けられています。  
不明な場合は納入先にご相談の上、処理してください。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

: 混合物

化学名又は一般名

: 合成潤滑油、潤滑油添加剤

化学式

: 特定できない

成分及び含有量

: 合成潤滑油 75 質量%以下  
潤滑油添加剤 25 質量%以上

化学特性

: 特定できない

官報公示整理番号

: 企業秘密なので記載できない

危険有害成分

化学物質管理促進法 (PRTR 法)

: 非該当

労働安全衛生法 第57条

: 表示対象物ではない

労働安全衛生法 第57条の2

: 通知対象物ではない

毒物劇物取締法

: 対象物ではない

(最終改定: 令和 5 年 7 月 19 日 薬生発 0710 代 3 号)

CAS No.

: 混合物 企業秘密なので記載できない

物理的及び化学的危険性

: 可燃物 危険物 第4類 第3石油類

4. 応急措置

吸入した場合

: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い場合は医師に連絡すること。

皮膚(または髪)に付着した場合

: 汚染された衣類、靴類を速やかに脱ぐ。

水または微温湯で洗い流し、石鹸を使ってよく洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合は、医師の診察を受けること。

眼に入った場合

: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

- 飲み込んだ場合 : 眼の刺激が続く場合は、医師の診察を受けること。  
: 口をすすぐこと。無理に吐かせずに、直ちに医師の診察を受けること。
- 最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報 : 情報は得られていない。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は、ゴム手袋、ゴーグル等の適切な保護具を着用する。
- 医師に対する特別注意事項 : 現在のところ有用な情報はなし。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡の消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状の水。(火災を拡大する場合がある。)
- 火災時の特定危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素、硫黄酸化物、リン酸化合物等の有害ガスが含まれる。
- 特定の消火方法 : 火元への燃焼減を断つ。  
初期火災には粉末、炭酸ガス消火剤、乾燥砂を用いる。  
大規模火災には泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。  
関係者以外は安全な場所に避難させる。  
周囲の設備などに散水して冷却する。
- 消火作業用の特別な保護具と予防措置 : 空気呼吸器などの保護具を着用し、酸素欠乏及び有毒ガスから身を守る。不浸透性の保護具及び手袋を着用する。  
消火作業は風上から行う。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際には、保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。  
必要に応じた換気を確保する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物を河川や下水道等に流出しないように注意する。
- 除去方法 少量の場合 : 吸着剤(土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。
- 多量の場合 : 盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。  
床に漏れた状態で放置すると滑り易く、スリップ事故の原因となるため注意する。
- その他 : 河川等に流出した場合は、管轄機関に連絡をする。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱いの注意事項
- 技術的対策 : 熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。
- 注意事項 : 容器を加熱する時は、温湿布又は60℃以下の温湯を使用し、直接ヒーター等で加熱してはならない。火気厳禁。
- 安全取扱い注意事項 : 容器をあける前に内圧を除き漏れ、溢れ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。  
室内で取扱いを行う場合は、十分な換気を行う。  
吸い込んだり、眼や皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用し、出来るだけ風上から作業を行う。  
静電気の帯電を回避するための対策を行う。  
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

保管上の注意

- 適切な保管条件 : 容器は密閉し、直射日光を避け、換気のよい場所で保管する。  
ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。  
火気厳禁。
- その他の注意事項 : 容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。  
容器の溶接、加熱、穴あけ、切断などはしない。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### <ばく露防止>

- 設備対策 : 発生源の密閉化、又は局所排気装置を設置することが望ましい。  
取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄を行う為の設備を設置する。
- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度 : 設定されていない。

### <保護措置>

#### 保護具

- 呼吸器用保護具 : 通常必要ではないが、暴露の程度が大きい場合、必要に応じて呼吸器用保護具を着用する。
- 手の保護具 : 長時間又は繰り返し接触する場合は、耐油性の保護手袋を着用する。
- 目の保護具 : 必要に応じて保護眼鏡を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 必要に応じて耐油性の保護服、保護長靴、保護前掛けを着用する。
- 適切な衛生対策 : 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 形状 : 液体
- 色 : 黒褐色半透明
- 臭い : 特有臭
- 凝固点 : データなし
- 沸点 : データなし
- 初溜点 : データなし
- 流動点 : -40.0℃以下
- 引火点 : 100℃
- 蒸気密度(g/ml) : データなし
- 密度(g/cm<sup>3</sup>(15℃)) : 約0.882
- 溶解性(水に対する溶解性) : 非水溶性
- オクタノール/水分配係数 : データなし
- 爆発点 : データなし

## 10. 安定性及び反応性

- 安全性 : 常温では極めて安定であり、避けるべき条件は特になし。
- 反応性 : 塩素酸塩、硝酸塩などの強酸化剤と反応する可能性がある。
- 避けるべき条件 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
- 避けるべき材料 : 現在のところ有用な情報はなし。
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼の際、一酸化炭素(CO)、硫化水素(H<sub>2</sub>S)、硫黄酸化物(Sox)、窒素酸化物(Nox)等が発生する可能性がある。
- その他 : 現在のところ有用な情報はなし。

## 11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口ラット LD<sub>50</sub> >5g/kg以上(推定値)
- 【局所効果】
- 皮膚腐食性/刺激性 : 有用な情報はなし。

眼に対する重篤な損傷／刺激性		: 有用な情報はない。
呼吸器または皮膚感作性		: 有用な情報はない。
がん原生	IARC	: 設定されていない
	EU	: 設定されていない
生殖細胞変異原性		: 現在のところ有用な情報はない。
催奇形性		: 現在のところ有用な情報はない。
生殖毒性		: 現在のところ有用な情報はない。
特定標的臓器毒性(単回暴露)		: 現在のところ有用な情報はない。
特定標的臓器毒性(反復暴露)		: 現在のところ有用な情報はない。
吸引性呼吸器有害性		: 現在のところ有用な情報はない。

## 12. 環境影響情報

生体毒性 魚毒性		: 魚毒性 現在のところ有用な情報はない。
残留性／分解性		: 現在のところ有用な情報はない。
生体蓄積性		: 現在のところ有用な情報はない。
土壤中の移動性		: 現在のところ有用な情報はない。
生体毒性 その他		: 現在のところ有用な情報はない。

## 13. 廃棄上の注意

投棄禁止。内容物を除去した後で、汚染容器・包装等を処分する。  
内容物／容器を廃棄する場合には、各都道府県／市町村の許可を受けた廃棄処理業者に業務委託すること。

## 14. 輸送上の注意

国際規則		
国連番号		: 非該当
国連品名		: 非該当
国連分類		: 国連の分類基準に該当しない。
海洋汚染物質		: 非該当
国内規則		
陸上	消防法	: 危険物 第4類 第3石油類、非水溶性、危険等級Ⅲ
	労働安全衛生法	: 非該当
海上		: 危険物船舶運送法及び貯蔵規則 非該当
航空輸送		: 航空法 非該当
輸送の特定の安全対策及び条件		: 容器の漏れ、破損のないことを確認し、転倒、落下等がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。 陸上輸送の場合、運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。 第1類及び第6類の危険物との混載を禁止する。 適用法令の定まるところに従う。

## 15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)	: 非該当
消防法	: 危険物 第4類 第3石油類 危険等級Ⅲ
労働安全衛生法	: 非該当
海洋汚染防止法	: 油分排出規制
水質汚濁防止法	: 油分排出規制
下水道法	: 鉱油類排出規制
毒物劇物取締法	: 非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 産業廃棄物規制

## 16. その他の情報

参照 JACA(日本オートケミカル工業会)編集:化学物質管理データベース  
JIS Z 7252 GHSに基づく化学物質等の分類方法  
JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び  
安全データシート(SDS)  
厚生労働省 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)改訂 9 版 UNECE  
2021  
安全衛生情報センターのホームページ  
化管法政令改正(2021.10.20公布) 化管法 対象物質除外リスト(2023年4月1日から)  
化管法政令改正(2021.10.20公布) 第2種指定化学物質リスト(2023年4月1日より)  
化管法政令改正(2021.10.20公布) 特定第1種・第1種指定化学物質リスト(2023年4月1日より)  
事業者向け GHS 分類ガイダンス(令和元年度改訂版(Ver2.0))  
自社データ及び原料メーカーの SDS を引用  
製品評価技術基盤機構ホームページ  
日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告(2021年版)  
化管法 SDS 標準書式 (JIS Z 7253 対応版)

---

安全データシートは、危険物有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、  
取扱う事業者提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の  
取り扱いの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要である事を理解した上で活用されるようお願い  
します。従って本データシートは安全の保証書ではありません。

又、記載事項は通常の実施を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用  
法に適した安全対策を実施のうえ、お取り扱い下さい。